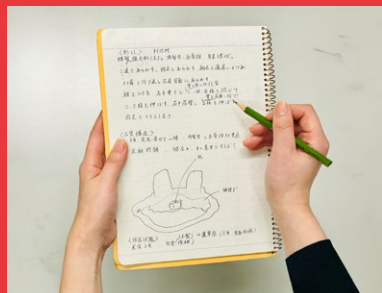


## COLUMN

### わたしの調査道具 B5判リングノート

「文化財の調査」と聞くと、どんなことを思い浮かべるでしょうか？作品の鑑定？時代や作者を判定して値段をつけるの？などと想像する方もいらっしゃるでしょう。実際の文化財調査はいわゆる「鑑定」とは異なります。例えば、私が専門としている仏教絵画や彫刻の調査では、まずは対象をよく観察して客観的な事実を記録していきます。その際に大切なのが調査記録です。作品の形状や法量（サイズ）、そして保存状態や銘文など確実なことだけを書き込んでいきます。もちろんその場で作者や時代についても考えますが、限られた時間で法量を測ったり撮影をしたりと調査は意外と忙しいのです。調査から戻って、改めて作品についてあれこれ考えるためにも調査記録はとても大切です。私が長年愛用しているのはリング式のB5判ノート。固い背表紙があるので立ったままでも安定して書き込める、欠かせない相棒です。

（文化財情報資料部 米沢玲）



### 輪島市町野地区・粟蔵のお祭りに行ってきました！

令和6（2024）年1月の能登半島地震の発生以来、石川県や地元市町村の皆さんをはじめ、全国の文化財関係者の協力のもと、地域の歴史や文化を守る「文化財レスキュー活動」が続いています。

粟蔵のキリコも、そうした活動により救出されたもののひとつです。地震後、地元の方からの要請を受け、倒壊寸前の倉庫から運び出して安全な場所でお預かりしていましたが、今年から祭りが再開されることになったので、無事に地元へお返しすることができました。10月4日にはキリコが地区を巡り、久しぶりの祭りに多くの方が笑顔を見せていました。

災害の爪痕はまだ深いものの、地域によっては少しずつ祭り再開の動きが見え始めています。お祭りの力が復興の歩みを後押しすることを願いながら、引き続き現地での活動に取り組んでいきたいと思えます。

（無形文化遺産部 後藤知美）



### 文化財を守る鍵は、空気の通り道にある —風を読む人は、環境管理を制す—

大切な文化財を守るためには環境管理が重要です。一方で温湿度のように“見えないもの”ほど、環境管理では手がかりをつかみにくいものです。

その中で、風の通り道を知ることは、文化財を守る環境管理の重要なヒントを与えてくれます。私はよく伸ばし棒に紐を括り付けたタフトを使い、空間の風の流れを読みます。また展示室、収蔵庫にある空調は風の大きな発生源です。吹出口の温度や湿度も測り、どのような風が出ているのかを確かめます。ふわりと揺れるタフトの動きと数字の組み合わせから、温湿度の偏りやエネルギーの無駄が見えてきます。

（保存科学研究センター 水谷悦子）



気流調査の風景

### 映画のなかのアジアの街・建築 第3回 過去と今、リアルとフィクションが 溶けあうアジアの旅 —「グランドツアー」—

グランドツアーは、裕福な家の若者たちが世界を旅して見聞を広げる近代イギリスの文化で、東・東南アジア（“Far East”）の旅は20世紀初頭に流行しました。

映画の舞台も1918年の“Far East”。異国を転々と、婚約者から逃げるエドワードとそれを追うモリーの物語です。熱帯を走る鉄道、ラッフルズ・ホテル、とオリエンタリズムのイメージが連なる…と思いきや、鮮やかな大阪、ホーチミンの大通りなど、アジアのリアルな雑景が散りばめられています。

サマセット・モームの著作『パーラーの紳士』から着想を得たミゲル・ゴメス監督。彼の足跡を追い、4年の歳月をかけ7カ国にて撮影を敢行しました。コロナ禍には各国撮影隊がリモートで映像を収め、チームプレーで完成した、“大きな旅”を経た映画です。

#### [作品情報]

題名 | グランドツアー

監督 | ミゲル・ゴメス

出演 | ギンサロ・ワディントン、  
クリスティーナ・アルファイアテ、他

公開 | 2025年

（文化遺産国際協力センター 黒岩千尋）